

## 老人クラブ

## ピンチ!?

▷ 3

県老人クラブ連合会の鈴木彬夫会長(80)は、室戸市室戸岬町は神奈川県で40年近く勤め、59歳で室戸市に帰郷。地元老クに入ってすぐに会長、69歳で市老連会長、76歳で県老連会長に。全国老連理事も務める。ピンチをどうとらえているのか聞くと、「解が見つからないんです」と率直な感想から始まった。

本県の9%という加入率(60歳以上)については、「これが実態を表しているのか正直、分からないです。定年延長が進む中、60代で入会できる人が何人いるのか。介護サービスを受ける人も増えてきました。こういう参

## 県老連 鈴木彬夫会長に聞く

加できない人を分母から引いて計算して初めて、目標とすべき適正な入会率が出ると思うんです」

56年前、国が老クの支援を始めた時の100歳以上人口は153人。今は7万人。全然違いますからね。昔の制度設計で数字を出しても意味がない、と個人的には思うんです」

存在感の低下についても認める。「ライバルが増えました。踊りの講座で言えば、老クは日舞、民謡が主体。でも、世の中

## 衝撃の減少をバネに



会員増に向けてアピールするため、広報誌の作り方を学ぶ安芸郡市の老人クラブリーダー研修会。円内は鈴木彬夫会長(8月30日、北川村の村民会館)

競争で負けるわけです。減らさないことなんです。その辺の議論もしていかなければ」

そして、老クの衰退を象徴するような100万人会員増強運動の結果、「5年間で逆に105万人減ってしまった。このショックを、どれだけ全国老連幹部や会員が深刻に受け止めた、それをバネに改革へつなげられるかです」

鈴木さんもその幹部の1人。だが、自分が会長という人が現れた。うれしいうちの室戸市老連は、運動期間の5年間、毎年会員を増やして計163人増。クラブも二つ増えた。5年連続増は全国市町村老連の中でも十数カ所しかない快挙だ。その極意をこう話す。

「重要なのは、単位クラブを消滅させないことです。単老で数人増えても、1クラブ消えたら水の泡。要は増強よりも、

室戸市には今、23クラブある。やめたいという所が毎年のように現れるが、鈴木さんは市老連会長として食い止める。一會長が見つからないなら、私が行つて探します。それでも駄目な時は、私が

という具合に、市町村老連のサポートが大きいという。

この6月、県老連会長3期目を引き受けた。やってみると自分の人生経験を生かせるし、自己実現もできる。結構、やりがいがありますよ」

(編集委員・掛水雅彦)